

⑤ 共通観点 3 (大学独自の成果指標と達成目標) 概念図【1 ページ】

法政大学の達成目標
10年後の法政大学の姿

我が国社会のグローバル化を牽引する大学

<目的 1> 世界のどこでも生き抜く力を備えたフロントランナーを育成する教育プログラム		
(指標1) 学部生のグローバル・アクティビティ体験率	派遣留学、SAプログラム、海外フィールドスタディ、国際ボランティア、国際インターンシップ等のいずれかを体験させる。	29.2% → 100 %
(指標2) 語学力達成度	全学部生 CEFR B1 (TOEFL®ITP 500 相当)以上	9.9% → 48.1 ^{50.3} %
	GGJ取組学部の語学力達成度 英語: TOEFL iBT®90 独語: 独検2級 仏語: TCF200-299 西語: DELE B2 露語: ТРКИ基礎級 中国語: 新HSK5級 朝鮮語: ハングル検定準2級	20.3% → 42.0 %
(指標3) サステナビリティ・プログラム修了者数	グローバル・オープン科目群サステナビリティ・プログラムの修了認定者数	(新規)100人/年
(指標8) グローバル・アクティビティ体験を通じた教育効果を可視化し、その結果を教育にフィードバックする体制を確立する。 (取組: グローバル・ポイント制やルーブリックの活用など)		
<目的 2> 「サステナブル社会」を構築する人材の集積とグローバル社会への発信力の強化		
(指標4) 海外からの短期受入れプログラム参加人数	短期実践日本語研修・文化体験や被災地をはじめとする地方の現場へのフィールド体験学習プログラムの参加人数	88人 → 1,000人/年
(指標9) 「国際日本学研究」や「サステナビリティ研究」をコアに世界から注目される「日本における課題解決のための研究成果」を発信している。 (取組: 国際日本学、日本文化、環境研究等の研究資料のアーカイブ機能を強化する。国際機関や海外大学との戦略的なパートナーシップを構築し、海外研究者との共同研究を進める)		
<目的 3> サステナブルなグローバル社会の基礎作りに向けた中等教育支援		
(指標5) グローバル化支援の連携高等学校	地球社会の持続可能性に関心を持ちグローバル化を推進する国内高校やアジアの高校との連携数	国内 6 → 100 校 海外 0 → 10 校
<目的 4> サステナブルなグローバル社会の構築を担う社会人の学びなおし		
(指標6) 再教育・キャリア教育講座受講生数	グローバルMBAコース、デザイン工学分野の国際プログラム。企業、NPO、国際機関との連携による短期集中プログラム等の受講者数	(新規)1,200人/年
(指標7) 卒業生ネットワークの組織化	世界各地でのHOSEI MEETINGの開催を通じて卒業生海外拠点を整備する。卒業生のキャリアヒストリーを蓄積・公開する。	海外拠点 9 → 20ヶ所 ヒストリー 100人 → 1,000人

1. 国際化関連 (4) 語学力関係

④学生の語学レベルの測定・把握、向上のための取組【1ページ以内】

【実績及び目標設定】

各年度大学が定める時点の数値を記入

	平成25年度 (H25.5.1)	平成28年度 (H28.5.1)	平成31年度 (H31.5.1)	平成35年度 (H35.5.1)
外国語力基準	CEFR(Common European Framework of Reference for Languages)を 活用し、達成指標を「自立した言語使用者」とされる「B1 (TOEFL®ITP 500 相当以上)」レベルを身につけることを基準とする。なお、GGJ 取組学部の考え方に変化はなく目標値を下回ることはない(英語： TOEFL iBT®90 以上、ドイツ語：独検2級以上、フランス語：TCF200-299 以上、スペイン語：DELE B2 以上、ロシア語：ТРКИ基礎級以上、 中国語：新HSK5級以上、朝鮮語：ハングル検定準2級以上)。			
外国語力基準を満たす学生数 (A)	2,217 人	8,600 人	11,000 人	14,200 人
うち学部(B)	2,217 人	8,000 人	10,480 10,000 人	13,580 13,000 人
うち大学院(C)	0 人	600 人	520 1,000 人	620 1,200 人
全学生数(D)	29,318 人	29,000 人	29,000 人	29,000 人
うち学部(E)	27,184 人	27,000 人	27,000 人	27,000 人
うち大学院(F)	2,134 人	2,000 人	2,000 人	2,000 人
割合(A/D)	7.6 %	29.7 %	37.9 %	49.0 %
割合(B/E)	8.2 %	29.6 %	38.8 37.0 %	50.3 48.1 %
割合(C/F)	0.0 %	30.0 %	26.0 50.0 %	31.0 60.0 %

【これまでの取組】

学生間の語学習熟度の差が広がる中、大規模な総合大学における語学教育は様々な形で取組を展開している。平成17年度より本学ではTOEFL®ITP(理系学部ではTOEIC®IP)のスコアを利用して、英語教育における習熟度別少人数のクラス編成を核とした教学改革を実現している。さらに、平成25年度からは、正課の語学授業に加えて、TOEFL®ITP450相当以上を有する学生対象の英語強化プログラム(ERP)を全学的に展開し、英語力強化のための授業を実践している。また、英語以外の諸外国語教育においても、大学での専門科目を履修できるレベルの語学力を養う教育プログラムを設けるとともに、定期的に外部試験の受験機会を与え教育効果の測定を行っている。

【本構想における取組】

■語学力向上のための戦略的・組織的な取り組み

習熟度別少人数のクラス編成を発展させ、さらに、平成28年度までに、ナンバリング制による語学科目と専門科目の繋がりを明確にするとともに、語学教育を通じて、国際社会や異文化に対する理解力、思考力や判断力などを涵養し、学生が上級学年に進級しても、日常的に語学力を活用できるよう、英語による専門科目や関連科目を充実させる。

■GGJ(経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援)取組学部の取組

GGJ取組学部は本学のグローバル化を牽引するため高い目標値を設定している。平成25年度には対象学生の20.3%が目標を達成しており、平成28年度には目標値を32.1%としている。GGJ事業終了後も32.1%の達成目標を維持し、平成35年度までには42.0%の達成率を目標とする。

■全学的な語学レベルの測定・把握

「世界のどこでも生き抜く力」を裏付ける外国語能力基準として、言語能力の4技能を総合的に計ることができるCEFR基準によるcan-do診断を年度修了時に課すとともに、年1回英語におけるTOEFL®等や諸外国の語学能力検定試験の受験機会を与え、学生の語学レベルを測定・把握し、習得度に応じた語学教育の機会を提供する(なお、GGJ取組学部は従来通りの測定を行う)。

欧米、アジア等の海外協定校からの短期海外留学生を年間約 60 名受け入れ、約 3 週間滞在し、日本語、日本の経済社会に関する講義や日本文化体験を行っている。

（指標 5）グローバル化支援に関する連携高等学校数

3 つの付属校間との高大連携事業の仕組みをグローバル化支援のために提携する高校に広げる。法政女子高等学校が、「SGH アソシエイト」に位置付けられたことを生かし、グローバルリーダーの育成に資する事業計画を策定している。付属校以外では、理工系への魅力を伝える理科実験教室やクエストカップと協力したプレゼンテーション力全国大会等の開催などを実施してきた。

（指標 6）再教育・キャリア教育講座受講生数

社会人の学びなおしに対応するために、大学院においては 11 研究科で昼夜開講・夜間開講を実施している。さらに、大学院の正規課程だけでなく、テーマ別に個別プログラム講座を開設するなど、多様な形でキャリア教育を実施している。大学単独のものに加えて、自治体との協力も生かし、教育研究成果を積極的に社会に還元するとともに、地方自治体・地域住民への貢献を推進している。

（指標 7）卒業生ネットワークの組織化

43 万人を超える卒業生の中にはグローバルな舞台で活躍している者も多い。平成 24 年に英国・ロンドンにて本学主催による卒業生の集いを実施している。平成 26 年度には卒業生組織である法政大学校友会が一般社団法人化し、サンフランシスコ支部、韓国校友会、台湾校友会、ニューヨーク支部、などの 9 海外支部が同法人の下に組織化されている。

（指標 8）グローバル・アクティビティ体験を通じた教育効果の可視化

GGJ においてルーブリック指標の項目について検討が進められており、学生が様々なグローバル・アクティビティに参加し、その体験を通じて何を修得すべきか、要素・内容・能力の定義が明確化され、段階別に達成度を示す評価規準が定められている。

（指標 9）「日本における課題解決のための研究成果」の発信

「21 世紀 COE プログラム」、「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」および「教育研究高度化のための支援体制整備事業プログラム」など競争的資金を獲得し、国際日本学研究、サステナビリティ研究を強化するとともに、研究所間の連携を進め、文理融合型の研究活動も推進してきた。15 を超える附置研究所や研究センターでは、文献や研究資料、所蔵する貴重資料をデジタルアーカイブ化し電子画像を世界に向けて発信し、国際的にも高く評価されている。

【本構想における取組】

■世界のどこでも生き抜く力を備えたフロントランナーを育成する教育プログラム

（指標 1）学部生のグローバル・アクティビティ体験率

派遣留学制度人数の増加に加え、ASEAN 地域の協定先大学を開拓し、学生の受入・派遣を実施する。学部教育課程における留学（SA プログラム）の学生数を計画的に増加する。特に米国留学経験者の人数を倍増する。あわせて、海外フィールドスタディなどの短期派遣プログラム、国際ボランティア・国際インターンシップの拡充や日本語教育・日本文化紹介インターンシップ等海外での取り組みを強化する。「2020 東京オリンピック・パラリンピック」の開催に際しては、スポーツ祭東京のボランティア活動経験を活かして、パラリンピック（プレ大会当を含む）等のサポートにより、多方面からこの国家的事業を支援し、国内におけるグローバル体験の場を積極的に拡大する。

（指標 2）語学力達成度

全学部において習熟度別少人数のクラス編成を発展させる。また、語学教育を通じて、国際社会や異文化に対する理解力、思考力や判断力などを涵養し、学生が上級学年に進級しても、日常的に語学力を活用できるよう、英語による専門科目や関連科目を充実させることにより、平成 35 年度には、学部学生の ~~48.1~~ 50.3% が CEFR B1 (TOEFL® ITP 500 相当) 以上を達成する。本学のグローバル化を牽引するという GGJ 取組学部の位置づけは変わることなく、高い目標値を継続する。GGJ 事業終了後も 32.1% の達成目標を維持し、平成 35 年度までには 42.0% の達成率を目標とする。

（指標 3）サステナビリティ・プログラム修了者数

全学共通科目のグローバル・オープン科目群（英語開講）において、「サステナブル社会」に関する体系的なプログラムを開設し、修了者に対して認定証を与える。サステナブル社会を実現